

2017年12月17日（日）

主 題：「力の限り声をあげよ」

—このお方を見よ！—

テキスト：イザヤ40章9－11節

はじめに

- ・イザヤ書は壮大なスケールで、歴史に介入される神がメッセージを送っています。そこには、大いなる神のマスタープランが見えてきます。今日のテキスト（イザヤ書40章）は、すばらしい呼びかけで始まっています。最初の2節は、イザヤ書の後半（40～66章）のメッセージを要約しているようです。

40:1 “「慰めよ。慰めよ。わたしの民を。」とあなたがたの神は仰せられる。

40:2 エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その労苦は終わり、その咎は償われた。そのすべての罪に引き替え、二倍のものを主の手から受けたと。”

- ・ここに主が語られた三つの理由があります：
 - ① その労苦は終わった：エルサレムの苦しみや悩みの時を示す
 - ② その咎は償われた：咎に対する「犠牲のいけにえ」が捧げられ、満足されること
 - ③ イスラエルの罪にもかかわらず、神は2倍の祝福を下された：

「2倍」は文字通りの2倍ということより「十分に」ということです。すなわち、エルサレムがその罪のために十分のさばきを受けて後、十分の祝福を受けるということです。
- ・このメッセージは、イスラエルがバビロン捕囚からの回復以上のものです。イスラエルには幸いな希望があります。神のマスタープランの内容を、本日のテキストから絞ってみたいと思います。キーワードは、「見よ」という言葉です。「見よ」とは、人の関心、注意、注目を促す言葉である。では、いったい何を「見よ」と言われるのでしょうか？ 3つの視点から考えたい。

大切なポイント

1. 存在の主である神を「見よ」

40:9 ユダの町々に言え。「見よ。あなたがたの神を。」

「見よ。あなたがたの神を。」とは、どんなお方でしょうか？

- 1) このメッセージはイスラエルの民に語られました。彼らの神は、それまで彼らの歴史の中で現れた神でした。たとえば、神は父祖アブラハムと片務契約による、永遠の「祝福の約束」を与えました。
- ・モーセを通し、エジプトで捕らわれ人々を、奴隷の身から解放させた神でした。約束の

地カナン（乳と蜜の流れる地）へと、導かれた神でした。

幾世代にもわたる預言者を通し、神の権威と計画を知らせた神でした。

- ・すなわち、イスラエルの神は歴史の中に存在し、生きて働かれた神です。これら全ては「言葉」を通して、伝えられました。

2) 神の言葉 ⇒ イザヤ40章

40:8「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神のことばは永遠に立つ。」

この世で、生あるものは常に移り代わり変化します。どんなものでも変化します。最も変わりやすいのは、私たち人間です。人の語る言葉、それは変わります。私たちは約束しても、約束を守り通すことは容易ではありません。それが私たち人間です。

- ・それに対して、神は絶対的に変わらないお方です。神が語られたことばである「聖書」は変わることはありません。ここに信頼する価値があります。神はみことばの信頼性を、預言のことばの中においておられます。預言は、神がどんなお方か、その本質を明確に示しています。メシアであるイエスの誕生は、まさしくそれを証明しています。
- ・歴史的事実であるイエスの誕生、イエスの生涯、十字架などがはっきりしています。しかし、信じない人は多くいます。どうしてでしょうか・・・？多くのユダヤ人がそうでした。

⇒人は聖霊の光に照らされて、はじめて真実が分かるのです。

12:3 聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です。」と言うことはできません。1コリント

- ・実在される神を知ることは、「神のわざ」です。私たちの信頼、信仰の基は、聖書にあります。私たちは永遠に変わらない聖書のみ言葉に、信頼を置きたいものです。
- ・次に、神は何を「見よ」と言われるのでしょうか？

2. 大能者である神を「見よ」

- ・預言者イザヤは、やがてイスラエルにメシア（救い主）が誕生すると、語りました。それは紀元前、約8世紀のことでした。皆さん。預言とは、これから先に起こることを神の権威によって、前もって啓示することです。

9:6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

- ・この聖句の中心は、「ひとりのみどりご」です。その「ひとりのみどりご」とは、次の3点において不思議なお方です：

1) 「ひとりのみどりご」の誕生

9:6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。

- この「**ひとりのみどりご**」の誕生は、私たちのために生まれるお方です。
「みどりご」とは新芽のような児のことです。
つまり誕生目的がはっきりしています。しかも、その「**ひとりのみどりご**」は男児であると預言されました。さらに「**ひとりのみどりご**」は私たちに与えられると言われました。この3点が預言されました。
- 「**ひとりのみどりご**」の不思議は次に、その名前にあります。

2) 「ひとりのみどりご」の名：

名前が預言されていました。⇒ 名前は人の「存在」を現す

① 「不思議な助言者」

中東の専制君主制社会においては当時、王に「助言者」や「議官」がいて政治を助けてました。箴言

24:6 「あなたはすぐれた指揮のもとに戦いを交え、多くの助言者によって勝利を得る。」

- しかし、「**ひとりのみどりご**」は主権者であり王であるのにも関わらず、助言者でもあると預言されました。つまり助言者を必要としない王です。じつに不思議なお方です。

② 「力ある神」

「**ひとりのみどりご**」の不思議さは、神ご自身であることです。しかも「**力ある神**」という。これは神からの啓示です。

③ 「永遠の父」

<永遠>は時間の延長で、終末的王国の樹立までを含むことです。

<父>は、イスラエルの民に対する保護者であることを示します。「**ひとりのみどりご**」は父であるというより、むしろ父のようなあわれみに満ちた姿を持っておられることが明らかにされます。

④ 「平和の君」

<平和>はシャローム（ヘブル語）、健康であり、平安であり、健全であり、安全であり、欠けるところのない十全性です。神との間に<シャローム>が完成すると、人との間にも<シャローム>が成立します。また個人の生活にも<シャローム>が満たされる。

- 「**ひとりのみどりご**」の名として、真にふさわしい名称です。
そしてさらに不思議なお方は、その働きにあります。

3) 「ひとりのみどりご」の働き

9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、**ダビデの王座**に着いて、その王国を治め、**さばきと正義**によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。

- ここでも主権とか平和という言葉が、繰り替えされている。「**ひとりのみどりご**」が「**ダビデの王座**」に座し、「**さばきと正義**によって」統治すると言います。しかし、少し考えみて下さい。このような理想の<王国>は、彼らの現実の姿から見ると、それは受け入れるのに大変難しいことで。未来の出来事は、現在の延長戦上にあることですから、未知であることを受け入れるには、「信

仰」が必要です。

- それは神から出ていなければ、到底できないことです。
イザヤは<主の熱心がこれを成し遂げる。>と言いました。<熱心>（ヘブル語でキヌアー）は、本来「ねたみ」という意味です。<主の熱心>と言われる時、悪を裁かれる、ねたむほどの主の熱心を指します。人間側の不可能を超えて、「万軍の主の熱心」さが救いを成就するのです。
- *ここに預言者イザヤが、「ひとりのみどりご」を「見よ」と述べた意味があります。次に、神は何を「見よ」と言われるのでしょうか？

3. 慈しみと愛の神を「見よ」

1) 預言とその成就

40:11 「主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、ふところに抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。」

- イザヤは、神は購われた民を導く<羊飼い>である、と語りました。
「購われた民」とは⇒ 買い取られた者という意味ですね。しかし、土地や奴隷の買い戻しのように、お金によるものではありません。お金で買い戻せない者を、神は「御血」によって買い戻されました。すなわち、イエスという神の小羊による買戻しです。（この神の購いの奥義は、35章で既に明らかにされた。）
- 詩篇 23 篇
23:1 主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。
23:2 主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。
23:3 主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。
- そして神の時が満ち、確かにイエスは来臨され、十字架による購いのわざを完了されました。ヨハネの福音書
10:11 「わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。」10:28 「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」

2) 報いと報酬

40:10 見よ。その報いは主とともにあり、その報酬は主の前にある。

- 先ず<報い>と<報酬>は同義語です。聖書は働きに対して、<報い>と<報酬>を教えています。
- ①労働に対しての<報い>と<報酬>
10:7 (あなたがたは) その家に泊まっていて、出してくれる物を飲み食いしなさい。働く者が報酬を受けるのは、当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけません。 (ルカ)
- ②<報い>と<報酬>には、<償い>の意味もあります
22:14 人が隣人から家畜を借り、それが傷つくか、死ぬかして、その持ち主がいつしよにいなかった場合は、必ず償いをしなければならない。

出エジプト

- ・すなわち、責任をとるということ ⇒ <償い> です。

本来、私たちは罪に対して、責任を取らなければならない立場です。しかし神は小羊イエスによって、<償い>をしてくださいました。神ご自身が<償い>をしてくださいました。イザヤは次のように預言しました。

53:5 しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。

- * 何ということでしょうか？イエスの来臨と誕生は、私たちが負わねばならない咎のための<償い>でありました。

3) 私たちは、どう応答すべきか？

マタイの福音書

11:28 すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。

11:29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。

⇒すなわち、イザヤがこの「見よ！」と語った神に、単純に、直に応答することです

{例話} 「分かれ道」

- ・アメリカのある所に、2人の少年がいた。彼らは悪い場所（未成年者に禁じられた）へ遊びに行こうと話し合っていた。彼らがある教会の前を通ると、大きな看板に「罪の支払う報酬は死である」と書かれていた。
- ・一人の少年は言った：「オイ、君、もう帰ろうよ。あの看板を読んだかい。“罪の支払う報酬は死である！”と書かれているのではないか。悪いことをやっていると、あの言葉どおりになるかも知れない。」
- ・するともう一人の少年が言った：「なんだって。折角ここまでやって来たのに、このまま帰るようではいけない。あんな看板の言葉に恐がっている君は、臆病者だ。意気地なしだ。さあ、行こう！」
- ・しかし、彼は動こうとせずはっきりと言った。「僕は行かない。」……。「それでは、勝つてにしなよ。僕は一人でも行くからな。」そして二人は、西と東に背を向け合って別れた。まっすぐ家に帰った少年は、自分の部屋に入り、神に祈った。「神様、今までの悪かったことをお赦してください。」彼は自分の罪を悔い改めた。その後、少年はひたすら勉学に励み、神への信仰も成長し、立派な人物となった。後年、彼は米国大統領にまで上りつめた。彼の名は、クリーブランド大統領であった。
- ・さて、もう一方の少年はどうなったか？ 彼は自分で選んだ罪の道、歓楽の道を歩き続け、とうとう殺人事件まで起こしてしまった。ある日、クリーブランドが大統領になったというニュースが、国内に知れ渡った。「号外！ 号外！」

と言って配られた一枚のニュースが、暗い刑務所にまで届いた。そこには死刑判決を受け、執行日を待つみの死刑囚がいた。その死刑囚は、あのかつての少年であった。彼は「ああ、罪の支払う報酬は死である」と叫んだという。

- ・ 若い日のただ一步の違いで、人生で取り返しがつかない大きな結果となった。

- * 愛する皆さん。私たちはクリスマスの前に、神のみ言葉に正直に、素直に、そして従順になろうではありませんか！ イザヤは、この神を「見よ！」と叫び預言しました。

ま と め

主 題：「力の限り声をあげよ」

—このお方を見よ！—

- ・ 神はイザヤを通し、疲れたイスラエルの民に、1節で「慰めよ。慰めよ。わたしの民を。」と語られた（預言）。イスラエルの神は、メシア（救い主）をクリスマスの日にお贈りくださいました。神はイザヤを通し、メシアについて旧約聖書で預言されました。神は真に偉大なお方です。イザヤは、3つの「見よ」を語りました。

1. 存在の主である神を「見よ」
2. 大能者である神を「見よ」
3. 慈しみと愛の神を「見よ」

- * 今、あなたは何を見えていますか？

< 購い > とってくださったお方（イエス）を見えていますか？

< 償い > をしてくださったお方（イエス）を見えていますか？

* God bless you!